

# **BEST AVAILABLE COPY**

## **[Reference 1]**

Japanese Utility Model Application No. 1-101810 (Japanese Utility Model Laid-open Disclosure No. 3-41611)

Disclosure Date: April 19, 1991

Applicant: Mr. Mitsuo Sato

Mrs. Yoshiko Sato

Title of Invention: Portable Container for Cosmetics

The object of the invention is to provide a compact container for cosmetics which enables to store various different cosmetics.

The present invention is directed to a portable container for cosmetics having several containers of substantially the same size in which various cosmetics can be stored. In particular, it constitutes of a plurality of containers which are stacked on top of another.

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

## ⑫ 公開実用新案公報 (U)

平3-41611

⑬ Int. Cl.

A 45 D 34/04  
33/00

識別記号

府内整理番号

Z 8608-3B  
Z 8608-3B

⑭ 公開 平成3年(1991)4月19日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全2頁)

⑮ 考案の名称 携帯用化粧用品容器

⑯ 実 願 平1-101810

⑰ 出 願 平1(1989)9月1日

⑱ 考案者 佐藤 光雄 福島県会津若松市大町1丁目7番7号  
 ⑲ 考案者 佐藤 嘉子 福島県会津若松市大町1丁目7番7号  
 ⑳ 出願人 佐藤 光雄 福島県会津若松市大町1丁目7番7号  
 ㉑ 出願人 佐藤 嘉子 福島県会津若松市大町1丁目7番7号  
 ㉒ 代理人 弁理士 山田 康生

## ㉓ 実用新案登録請求の範囲

- 1 外周をほぼ同じ形状に形成して内部に各種の化粧用品を収容できるようにし、しかも上下に積み重ねができるようにした容器の複数個を、上下に積み重ねた携帯用化粧用品容器。
- 2 はめ合わせながら互いを連結する手段により、上下の容器を上下方向に連結して積み重ねたものである、請求項1記載の携帯用化粧用品容器。
- 3 複数個の容器を上下方向に積み重ねたものを、それがちょうどはまる内部形状とした下ケース内に上方から収納して、下ケースの外周にちょうどはまる内部形状とした上ケースを上からぶせて下ケースの外周にはめたものであ

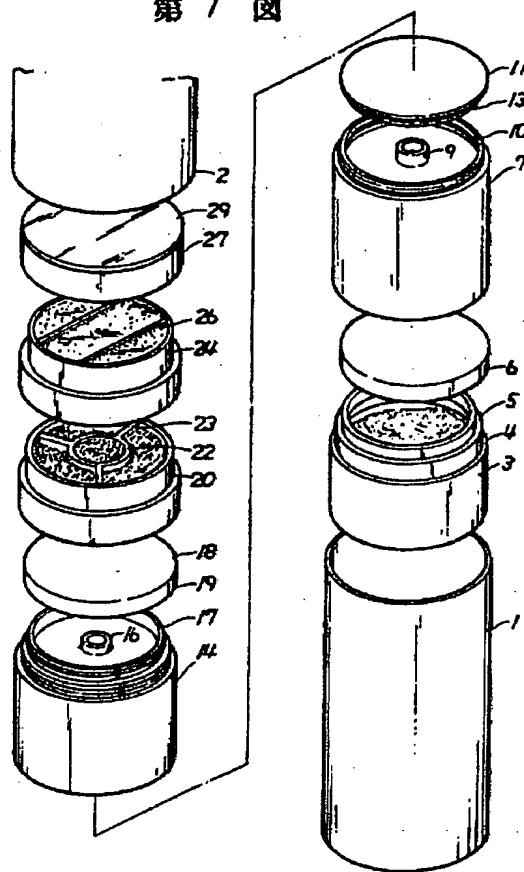
る、請求項1又は請求項2記載の携帯用化粧用品容器。

## 図面の簡単な説明

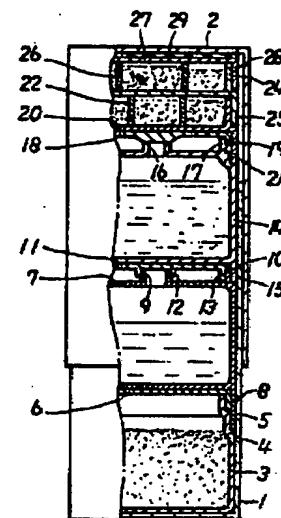
第1図は実施例1を示す分解斜視図、第2図は実施例1のものを組み立てた状態を示す縦断面図、第3図は実施例2を示す斜視図、第4図は実施例3を示す斜視図である。

1……下ケース、2……上ケース、3……容器、7……容器、8……円筒、10……円筒、13……円筒、14……容器、15……円筒、17……円筒、19……円筒、20……容器、21……円筒、24……容器、25……円筒、28……円筒。

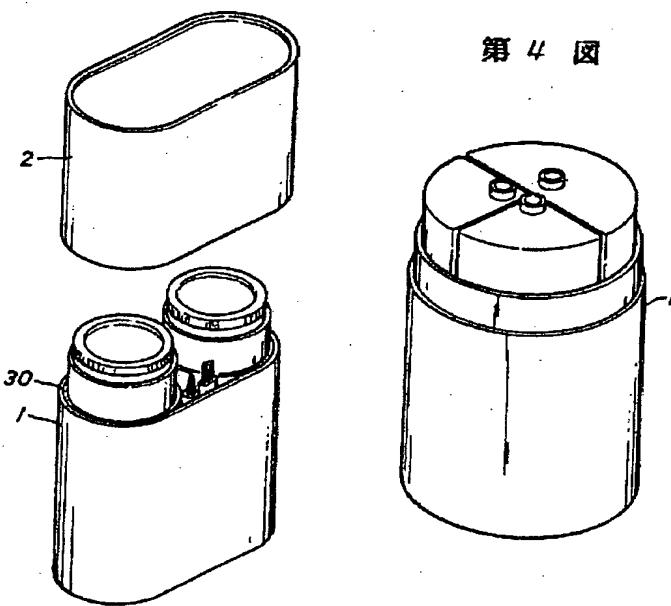
第一圖



## 第 2 圖



### 第 3 図



# 公開実用平成3-41611

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

平3-41611

⑬Int.Cl.<sup>5</sup>

A 45 D 34/04  
33/00

識別記号

庁内整理番号

⑭公開 平成3年(1991)4月19日

Z 8608-3B  
Z 8608-3B

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑮考案の名称

携帯用化粧用品容器

⑯実 願 平1-101810

⑰出 願 平1(1989)9月1日

⑱考 案 者

佐藤 光雄 福島県会津若松市大町1丁目7番7号

⑲考 案 者

佐藤 嘉子 福島県会津若松市大町1丁目7番7号

⑳出 願 人

佐藤 光雄 福島県会津若松市大町1丁目7番7号

㉑出 願 人

佐藤 嘉子 福島県会津若松市大町1丁目7番7号

㉒代 理 人

弁理士 山田 康生

## 明細書

1. 考案の名称 携帯用化粧用品容器
2. 実用新案登録請求の範囲
  1. 外周をほぼ同じ形状に形成して内部に各種の化粧用品を収容できるようにし、しかも上下に積み重ねることができるようとした容器の複数個を、上下に積み重ねた携帯用化粧用品容器。
  2. はめ合わせながら互いを連結する手段により、上下の容器を上下方向に連結して積み重ねたものである、請求項1記載の携帯用化粧用品容器。
  3. 複数個の容器を上下方向に積み重ねたものを、それがちょうどはまる内部形状とした下ケース内に上方から収納して、下ケースの外周にちょうどはまる内部形状とした上ケースを上からかぶせて下ケースの外周にはめたものである、請求項1又は請求項2記載の携帯用化粧用品容器。
3. 考案の詳細な説明

ップ化粧品までのすべてにわたって収納でき、一見便利なように見える。しかし、各化粧用品の各容器の形が千差万別であるために、ケース内の無駄な空間が多くなりすぎた。このため、どうしても大形になってかさばってしまった。

また、化粧用品の詰め合わせセットをケース内にまとめた携帯用化粧用品容器の場合も、各化粧用品を収容した各容器の形はそのままにし、単にそれらをそれぞれ小形にして詰め合わせたにすぎない。したがって、同じくケース内に無駄な空間ができるて、全体が大形になってしまった。

この考案が解決しようとする課題は、各種化粧用品を集約的に収納できるようにして、全体をできるだけ小形にした携帯用化粧用品容器とするには、どのような手段を講じればよいかという点にある。

## (二) 課題を解決するための手段

この考案に係る携帯用化粧用品容器は、そのような課題を解決するものであつて、次のようなものである。

すなわち、外周形状をほぼ同じに形成して内部に各種の化粧用品を収容できるようにしており、しかも上下に積み重ねることができるよう正在している容器の複数個を上下に積み重ねた携帯用化粧用品容器である。複数個の各容器は、円筒状のものとしてもよいし、楕円筒状・三角筒状・四角筒状等のものとしてもよい。

これら複数個の容器は、はめ合わせながら互いを連結する手段により上下方向に互いに連結して積み重ねたものとすることもできる。

また、複数個の容器を上下方向に積み重ねたものを、それらがちょうどはまる内部形状とした下ケース内に上方から収納して、下ケースの外周にちょうどはまる内部形状とした上ケースを上からかぶせて下ケースの外周にはめたものとしてもよい。

## (ホ) 作用

この考案に係る携帯用化粧用品容器は、次のようにして使用する。すなわち、複数個の各容器にそれぞれ化粧水・クリーム・口紅・白粉等を詰め

て上下方向に積み重ね、外出時にはかばん・ハンドバッグ等に入れて携行する。そして、化粧をするときには取り出して、各容器に詰めたいいろいろな化粧用品で化粧をする。化粧が終わったら、各容器を元の状態に積み重ね、再びかばん等に仕舞う。

なお、はめ合わせながら互いを連結する手段により上下の容器を上下方向に互いに連結して積み重ねるようとした場合は、それらの手段により上下方向に各容器を連結した状態にして携行する。

また、複数個の容器を上下方向に積み重ねたものを、下ケース・上ケース内に収容するようにした場合は、積み重ねたものを下ケース・上ケース内に収容して携行する。

#### (ヘ) 実施例

##### 実施例 1

第1図は実施例1を示す分解斜視図、第2図は実施例1を組み立てた状態を示す縦断面図である。

1は下ケースを示している。下ケース1は、円筒状としていて、底板はあるが上方は開口させて

いる。2は上ケースを示している。上ケース2は、下ケース1の外周にちょうどはまる大きさとした円筒に形成していて、上板はあるが下方は開口させている。

下ケース1内にちょうどはまる外径とした複数の容器を積み重ねて、下ケース1内に収納するようしている。一番下の容器3は、円筒状のものとし、底板はあるが上方を開口させたものとしている。容器3の上方部分外周はやや小径に形成し、小径部分の下端に段部4を形成している。そして、その小径部分の上方部分も更にやや小径に形成し、その小径部分の下端にも段部5を形成している。上方の小径部分の外周にちょうどはまる内径としたふた6を容器3の上からかぶせて、ふた6の下端を容器3の段部5に当てている。ふた6の外径は、容器3の下方の小径部分の直径と一致するものとしている。

容器3の上に別の容器7を重ねている。容器7の外径は容器3と同じにしている。容器7の下面には下方へ向けて円筒8を形成している。円筒8

の外径は容器3の外径と一致するものとし、円筒8の内径はふた6の外径や容器3の下方の小径部分の直径と一致するものとしている。

容器7は、底板と上板とを備え上板の中央に小円筒状の口9を形成している。容器7の上面外周に、上方へ向けて短い円筒10を形成している。円筒10の内周と外周とに、それぞれリブを形成している。

容器7の上にふた11をかぶせている。ふた11の下面中央に小円筒状としたキャップ12を下方へ向けて形成し、キャップ12が容器7の口9の外周に密着してはまるよう正在している。また、ふた11の下面外周に下方へ向けて短い円筒13を形成し、円筒13が容器7の円筒10の内周に密着してはまるよう正在している。なお、ふた11の円筒13の外周において、容器7の円筒10の内面に形成したリブがちょうどはまる位置に、ちょうどはまる形状としたくぼみを形成している。

容器7の上に別の容器14を重ねている。容器14の直径は、容器7と同じにしている。容器1



# 公開実用平成3-41611

4の下面外周に、下方へ向けて円筒15を形成している。円筒15は、容器7の円筒10の外周にちょうどはまる内径として、しかもその内面において円筒10の外周に形成したリブがちょうどはまる位置に、ちょうどはまる形状としたくぼみを形成している。

容器14の上板の中央に口16を設け、上面外周に円筒17を形成している。円筒17の外周にはリブを形成している。

容器14の上にふた18をかぶせている。ふた18の下面の中央部分は山盛り状に形成し、容器14の口16に密着してふさぐようにしている。ふた18の外周には下方へ向けて円筒19を形成し、円筒19の内周にくぼみを形成している。

容器14の上に別の容器20を重ねている。容器20の下面外周には、下方へ向けて円筒21を形成している。円筒21の外径は、容器14と同じにしている。そして、第1図が示すように、容器20内の中間にリング状の仕切り22を配置し、仕切り22から放射状に3本の仕切り23も配置

している。

容器 20 の上に別の容器 24 を重ねている。容器 24 の下面外周には下方へ向けて円筒 25 を形成している。円筒 25 の外径は、容器 20 の円筒 21 の外径と同じにしている。そして、第 1 図が示すように、容器 24 内には 2 枚の仕切り 26 を配置している。

容器 24 の上にふた 27 をかぶせている。ふた 27 の下面外周に、下方へ向けて円筒 28 を形成している。円筒 28 の外径は、容器 24 の円筒 25 の外径と同じにしている。

ふた 27 の上に鏡 29 を接着している。

第 1 図及び第 2 図に示したものは、次のようにして使用する。容器 3 には、例えばクリームを入れる。容器 7 や容器 14 には、化粧水・乳液等の液状のものを入れる。容器 20 や容器 24 には、仕切り室ごとに区分けして口紅・ほほ紅・アイシャドウ・パウダー・パフ等を入れる。そして、各容器を重ねて下ケース 1 内に入れ、上方から上ケース 2 をかぶせると、第 2 図に示す状態になる。こ

# 公開実用平成3-41611

の状態にして保管をする。

外出時にも、第2図の状態で携行する。化粧をするときには、上ケース2を取り外して下ケース1内から中のものを抜き出す。それから、鏡29を見ながら、各容器内の化粧用品を使って化粧をする。

## 実施例2

第3図は実施例2を示す斜視図である。実施例2のものにおいては、下ケース1や上ケース2は楕円形状のものとしている。そして、下ケース1内に円筒状とした二つの仕切り30をはめている。各仕切り30内に複数の容器を積み重ねたものを収納している。各仕切り30と下ケース1との間に形成された空間に、アイカラーブラシ等を収納しておくこともできる。

## 実施例3

第4図は実施例3を示す斜視図である。下ケース1は円筒状のものとして、上方部分は小径に形成している。そして、下ケース1内に、半円弧状の容器を積み重ねたものと、4分の1円弧状の容



器を積み重ねたものの2組とを収納している。

#### (ト) 考案の効果

この考案に係る携帯用化粧用品容器は、各種化粧用品を集約的に収納できるようになっているため、極めて小形にすることができる。

なお、はめ合わせながら互いを連結する手段により上下の容器を上下方向に互いに連結して積み重ねたものとした場合は、互いをはめ合わせて連結した状態で保管や携行ができるから、取り扱いに便利である。

また、複数個の容器を上下方向に積み重ねたもののを、それらがちょうどはまる内部形状とした下ケース内に上方から収納して、下ケースの外周にちょうどはまる内部形状とした上ケースを上からかぶせて下ケースの外周にはめたものとした場合は、下ケース及び上ケース内に収納した状態で保管や携行ができるから、同じく取り扱いに便利である。しかも、その状態で保管や携行をするから、保管中や携行中に内部の各容器が露出してふたが開いたりして、内容物が漏れ出したりするおそれ

# 公開実用平成3—41611

はない。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図は実施例1を示す分解斜視図、第2図は実施例1のものを組み立てた状態を示す縦断面図、第3図は実施例2を示す斜視図、第4図は実施例3を示す斜視図である。

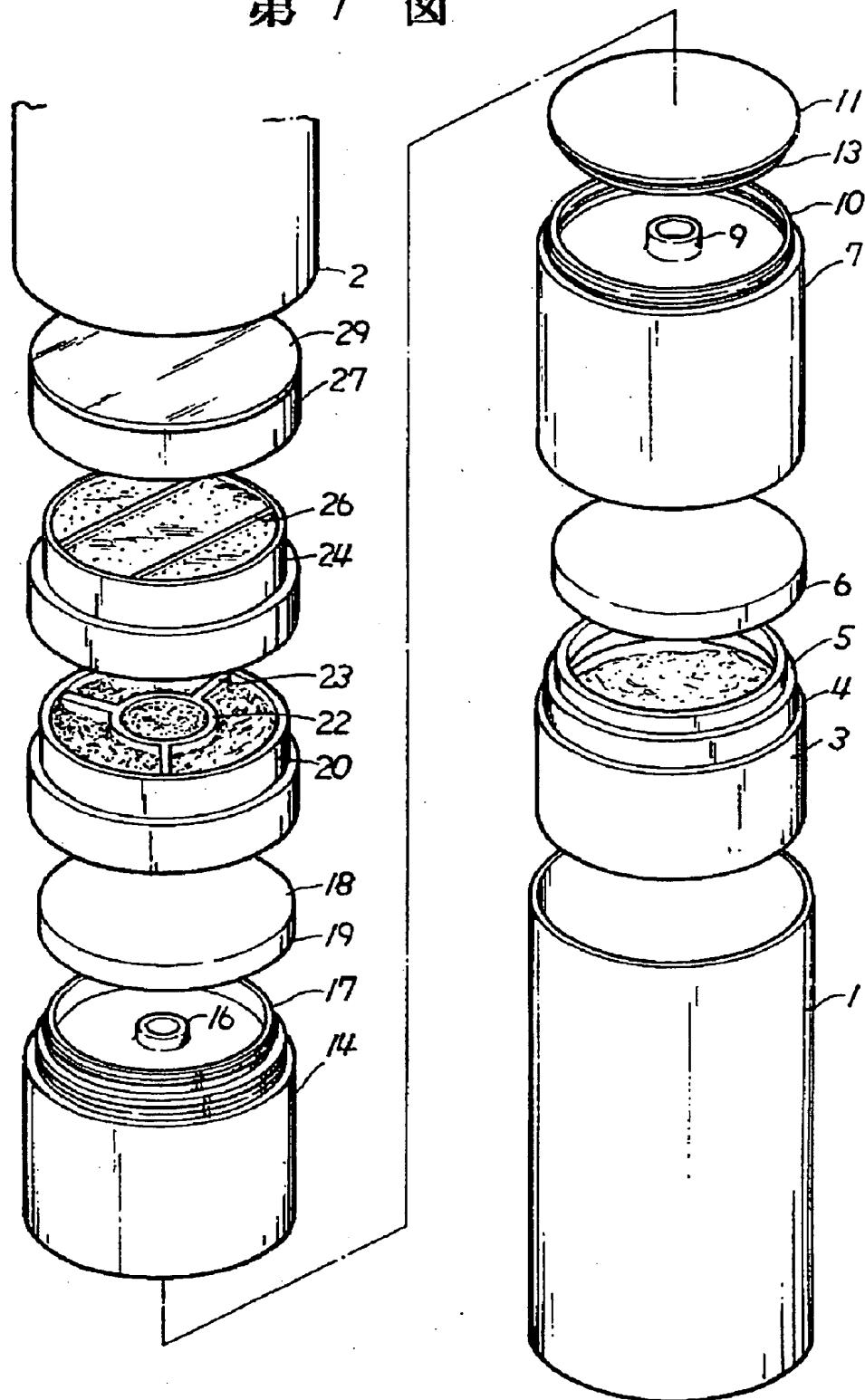
1 … 下ケース	2 … 上ケース
3 … 容器	7 … 容器
8 … 円筒	10 … 円筒
13 … 円筒	14 … 容器
15 … 円筒	17 … 円筒
19 … 円筒	20 … 容器
21 … 円筒	24 … 容器
25 … 円筒	28 … 円筒

実用新案登録出願人 佐藤光雄

実用新案登録出願人 佐藤嘉子

代 理 人 山田康生

第一圖

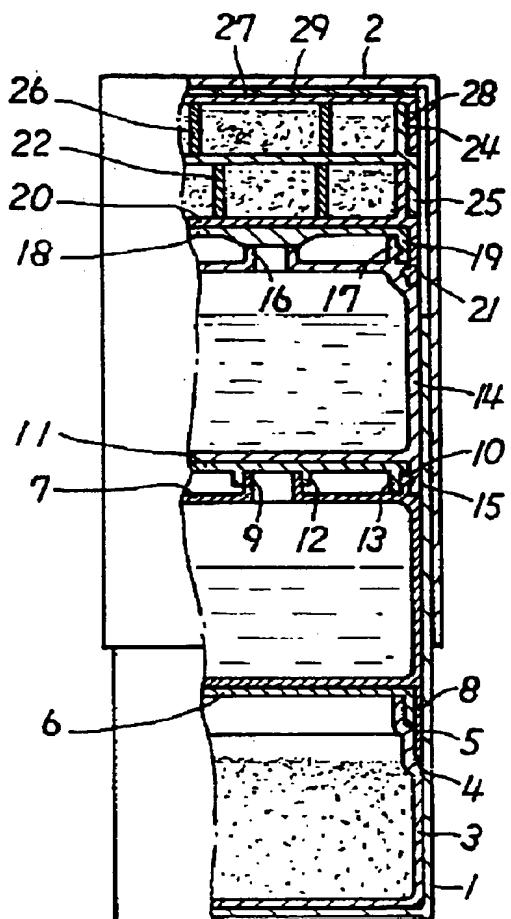


代理人 山田 康生

137

明治三十二年九月二十一日  
日本国特許庁

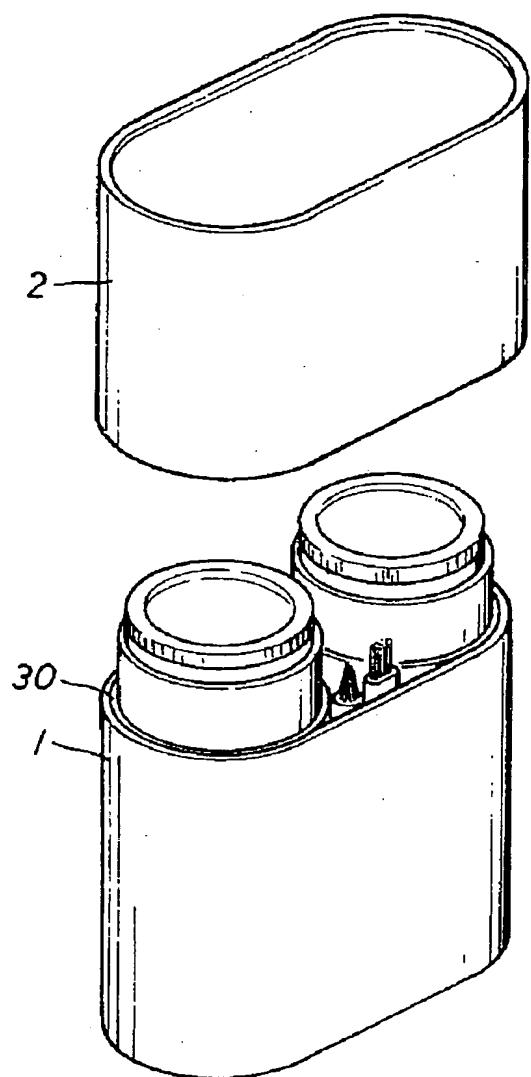
第 2 図



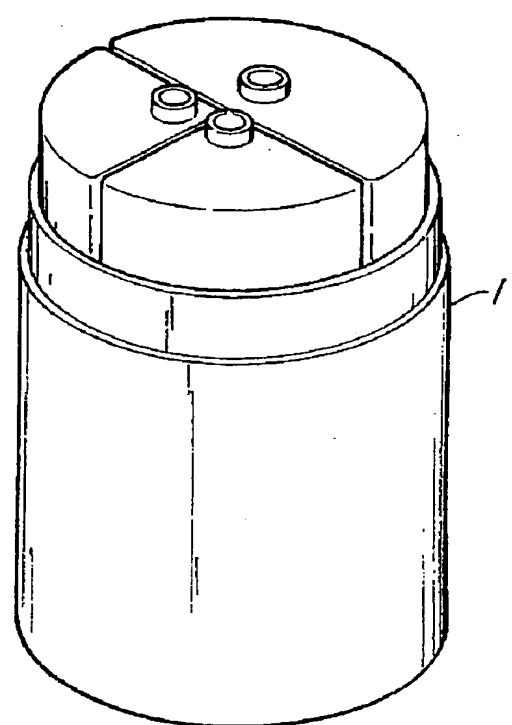
実用 3- 416  
13

代理人 山田康生

第 3 図



第 4 図



実開3 41611

代理人 山田康生 133

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

**BLACK BORDERS**

**IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

**FADED TEXT OR DRAWING**

**BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

**SKEWED/SLANTED IMAGES**

**COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

**GRAY SCALE DOCUMENTS**

**LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

**REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

**OTHER:** \_\_\_\_\_

## **IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**